

■創造と想像の力

『幼児の造形表現』という授業では、学生が絵本を読んだり作ったりすることで生きる喜びを味わい、それを子どもたちに伝えて欲しいと願っています。授業のはじめに学生は本学図書館内「えほんのひろば」に行きます。そこにたくさんある市販の絵本と先輩の手作り絵本を声に出して読み合い、多くのことを学びます。

学生が最初に作るのは、「ねんど絵本」です。土粘土をひねってできた主人公に命を吹き込み、想像を働かせ、さまざまなポーズをつけて物語を作ります。それをデジカメで撮影し、画面構成をして絵本にします。二冊目は、古新聞のカラー面をビリビリとちぎって、偶然生まれた形を人や動物に見立てて絵本を作ります。さらに、三冊目は平面的な画面だけでなく、飛び出し動く仕掛けを考えてポップアップ絵本を作ります。このようにして各自学生は、三種類のオリジナルな絵本を作って『手作り絵本展』を開きます。

絵本を作る前の学生は、物語を考え、絵を描くなど自分には難しすぎてできないと尻込みします。しかし、教材研究としての粘土遊びの面白さから夢中になり、写真に撮って並べ替えをする中で物語が生まれてきます。学生自身が想像し、創造する喜びを実感すれば、子どもにもさまざまな造形活動の楽しさをいきいきと伝えることができます。



3種類の絵本

■企画、運営の力

学生は卒業後、幼稚園や小・中学校へ勤めると、学校行事や地域の行事の企画、運営を任されることがあります。特に、子どもの作品発表展覧会などは各地で開かれます。そこで、授業の一環として学生が作った絵本と地域の方々が作った絵本を同じ会場で展



美術教育講座・教授
梶田 幸恵

示することにしています。

先輩から引き継いだ資料をもとに、毎年、学生は工夫を重ね、また、地域の方々のお力も借りて企画、運営をします。『手作り絵本展』のチラシとポスターを作って近隣の保育園、幼稚園、小・中学校へお願いに行き、報道関係にはファックスでお知らせするなど、大忙しです。土、日曜も期末試験中も特別開館する



子どもと学生

ので当番は学生だけでなく、地域の方々も応援してくれます。なにより、学生にとって地域の方々の手作り絵本を同じ会場に展示して鑑賞できるのは刺激になり、次の創作意欲を高める効果があります。

今年も九回目の『手作り絵本展』を学内の教育資料館で十八日間、開催しました。附属学校の子どもたちや地域の人たち、九州からお越しくださった方も含め約千五百人の来館者がありました。

■教育実践の力

わたしの授業は、教育実習に行く前の学生が多く受講します。実習前に学生が子どもに出会う場を持ちたいと願って、『手作り絵本展』の会場内にだれでもいつでも参加できる「絵本作りコーナー」を設けています。学生ははじめ戸惑いますが、子どもと接するうちにどのように話せばわかってもらえるか考え、子どもから多くのことを学びます。子どもの発想の豊かさに驚き、創作意欲に圧倒されます。子どもの楽しそうな様子を見て大人も絵本作りを試みます。子どもも大人も自分で絵本を作った後で市販の絵本を見ると、プロの絵本作家の苦心や工夫が分かり、絵本の楽しさが広がります。